

令和7年

国語演習

2

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	内容一覧 (二年)
表現を見つめる	価値を語る	いにしえの心を訪ねる	いにしえの心を訪ねる	論理を捉えて	人間のきずな	人間のきずな	多様な視点から	広がる学びへ	広がる学びへ	
・走れメロス	・君は「最後の晩餐」を知っているか	・漢詩の風景	・扇の的	・モアイは語るー地球の未来	・字のない葉書	・ヒューマノイド	・クマゼミ増加の原因を探る	・枕草子	・アイスプラネット	
										問題
										解答用紙
										解答

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

それから、ぐうちゃんがまた僕の家に帰ってきたのは、九月の新学期が始まってしばらくした頃だった。顔と手足が真っ黒になっていて、パンツ一つになると、どうしても笑いたくなくて困った。

残暑が厳しい日だった。久しぶりにぐうちゃんのほら話を聞きたいと思った。またからかわれてもいい。暑いから、今度は寒い国の話が聞きたい感じた。

ところが、ぐうちゃんの話は、**A** 動物のでも、暑い国のでも、寒い国の話でもなかった。
「旅費がたまったから、これからまた外国をふらふらしてくるよ。」

ぐうちゃんは「トツゼンそう言った。『でもまあもう少し。』にはこんな意味があったのか。ぐうちゃんはいつもと変わらずに話を続けている。それなのに、ぐうちゃんの声は、**①** どんどん遠くなっていく。気がつく、僕はぶっくらばうに言っていた。

「勝手に行けばいいじゃないか。」
ぐうちゃんは、そのときちょっと驚いた表情をした。何かを話しかけようとするぐうちゃんを残して僕は部屋を出た。

それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。母は、そんな僕たちに、あきれたり慌てたりしていたけれど、父は何も言わなかった。

十月初めに、ぐうちゃんは小さな**②** 旅支度をして「いそうろう」を卒業してしまった。

③ 出発の日、僕は、何て言っているのかわからないまぐうちゃんの前に立っていた。ぐうちゃんは僕に近づき、あの表情で笑った。そして、何も言わずに僕の手を握りしめ、力の籠もった強い握手をして、大股で僕の家を出ていった。

「ほらばっかりだったじゃないか。」

「いそうろう」がいなくなってしまった部屋の前で、僕はそう思った。

ぐうちゃんから外国のちょっとしたしやれた**④** フウトウで僕に手紙が届いたのは、それから四か月ぐらいたってからだった。珍しい切手がいっぱい貼ってあった。

「あのときの話の続きだ。以前若い頃に、北極まで行ってイヌイットと暮らしていたことがあるんだ。そのとき、**⑤** アイスプラネットを見に行こう、と友達になったイヌイットに言われてカヌーで北極海に出た。アイスプラネット。わかるだろう。氷の惑星だ。それが北極海に本当に浮かんでいたんだ。きれいだっただよ。厳しい自然に生きている人だけが目にできる、もう一つの宇宙なんだな、と思ったよ。地上十階建てのビルぐらいの高さなんだ。そして、海の中の氷は、もっともつとでっかい。悠君にもいつか見てほしい。若いうちに勉強をたくさんして、いっぱい本を読んで、いっぱい『不思議アタマ』になって世界に出かけていくとおもしろいぞ。世界は、楽しいこと、悲しいこと、美しいことで満ち満ちている。誰もが一生懸命生きている。それこそありえないほどだ。それを自分の目で確かめてほしいんだ。」

手紙には、ぐうちゃんの力強い文字が**B** 詰まっていた。そして、フウトウからは写真が二枚出てきた。一枚は人間の倍ぐらいあるでっかいナマズの写真。もう一枚は、北極の海に浮かぶ、見た者を幸せにするという**⑥** 氷の惑星の写真だった。

〈椎名誠「アイスプラネット」より〉

1 線⑦⑧の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 線a「ぐうちゃん」b「九月」の名詞の種類として適当なものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 普通名詞 イ 固有名詞 ウ 代名詞
エ 数詞 オ 形式名詞

3 **A**、**B** にあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア ぎっしり イ ばっちり ウ ちっちゃい エ でっかい

4 線①「どんどん遠くなっていく」は、どんな様子を表しているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ぐうちゃんの声が小さくなっていく様子
イ 「僕」の体力がどんどん弱っていく様子
ウ ぐうちゃんの話が頭に入っていない様子
エ 「僕」の興味が次第に薄れていく様子

5 線②「出発の日」について、次の問いに答えなさい。

(1) 出発の日ぐうちゃんがしたことを二つ、文章中からそれぞれ十四字と二十八字で抜き出し、始めの四字を書きなさい。

(2) (1)の動作から読み取ることができぐうちゃんの感情として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 安心 イ 激励 ウ 軽蔑 エ 奮起

6 線③「僕は、何て言っているのかわからない」、線④「ほらばっかりだったじゃないか」とあるが、このときの「僕」の気持ちとして適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 何が起ったのか理解できず戸惑っている。
イ ぐうちゃんとの別れに寂しさを感じている。
ウ うそに気づかず楽観的だった自分に腹を立てている。
エ 素直になれずに意地を張っている。
オ 本心を隠していたことを後悔している。

7 線⑤「手紙」の内容から読み取れる、ぐうちゃんの人物像として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 日常の小さな出来事を大げさに話す人物
イ 非現実の世界を空想して物語を作る人物
ウ あらゆる分野の知識をもっている人物
エ 常識に収まらず広い視野で世界を見る人物

8 線⑥「アイスプラネット」について、次の問いに答えなさい。

(1) ぐうちゃんはどうのようなものだと感じているか。文章から七字で抜き出して書きなさい。
(2) この表現技法を何というか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 隠喩 イ 直喩 ウ 擬人法 エ 対句

9 ぐうちゃんは、手紙の中で「僕」にどのようなことを伝えているか。「〜ということ。」につながるように、二十字以上三十字以内で書きなさい。

10 線⑦「氷の惑星」が象徴しているものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 常識にとらわれていては見ることでできない、世界の不思議
イ 人間が責任をもって守っていかなければならない、大自然の美
ウ 目に見える物事の裏に隠れている、世界を動かす大きな力
エ 大人になってもずっと心に抱いていた、純粋な少年の心

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

〔原文〕

- 1 春は^㉔あけぼの。^㉕やうやう白くなりゆく^㉖山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。
- 2 夏は夜。月^㉗のころはさらなり、闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかに^㉘うち光りて行くも^㉙A。雨など降るも^㉚A。
- 3 秋は夕暮れ。夕日^㉛のさして山の端いと^㉜近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへ^㉝Bなり。まいて雁などの^㉞つらねたるが、いと小さく見ゆるはいと^㉟A。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。
- 4 冬はつとめて。雪の降りたるは^㊱言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、また^㊲さらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭もて渡るもいと^㊳つきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、^㊴火桶の火も白き灰がちになりて^㊵わろし。

(第一段)

〔現代語訳〕

春は^㉔あけぼの。だんだんと白んでいく山ぎわが、少し明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいている(のは風情がある)。

夏は夜。月の頃は言うまでもないが、闇もやはり、螢が多く飛びかっている(のがよい)。また、ほんの一、二匹ほかに光って飛んでいくのも趣がある。雨などが降るのもいい。

秋は夕暮れ。夕日が差して山の端にとても近づいた頃に、鳥がねぐらへ行くというので、三、四羽、二、三羽などと飛び急ぐことまでもしみじみとしたものを感じさせる。まして、雁などが列を作っているのが、たいそう小さく見えるのはたいへんおもしろい。日がすっかりしずんでしまって、風の音、虫の音など(がするもの)、これもまた、言いようもない(ほど趣深い)。

冬は早朝。雪が降っているのは、^㉙い。霜が真つ白なもの、また^㉚㉚、たいそう寒いときに、火などを急いでおこして、炭を持って(廊下などを)通っていくのも、たいへん似つかわしい。昼になって、だんだん暖かくなって(寒さが)ゆるんでいくと、火桶の火が白い灰ばかりになって、好ましくない。

〈「枕草子」より〉
(注) 1～4は段落番号である

1 線①「山ぎは」の意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 空の、山に接するように見える辺り
イ 山の、空に接する辺り
ウ 山と地面の接する辺り
エ 山の下の方の、平地に近い辺り

2 線aとdの中から、意味・用法の異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

3 線㉔と㉕の口語訳を書きなさい。

4 線㉗と㉘を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

5 線②「うち光りて行く」、線③「つらねたる」の動作主は何か。それぞれ「原文」中から一字で抜き出して書きなさい。

6 A、Bにあてはまる感動を表す言葉を、それぞれ三字で書きなさい。

7 線④「つきづきし」とあるが、作者はどのような様子をしてこう述べているのか。三十字以上四十字以内で書きなさい。

8 線⑤「ぬるくゆるびもていけば」とあるが、「だんだんゆるんでいく」ものは何か。二字の現代語で書きなさい。

9 線⑥「わろし」とあるが、「好ましくない」ことは何か。十五字以上二十五字以内で書きなさい。

10 次のア～ウは、どの段落について説明しているか。それぞれ1～4の段落番号で答えなさい。

- ア 自然の美しさだけでなく、生活を営む人の様子にも趣深さを見出している。
イ 作者の感動を記した描写が、視覚的なものから聴覚的なものへと移っている。
ウ 明暗の対比を描きながら、そのどちらもがよいと述べている。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

「前提」① クマゼミの一生と、環境の影響を受ける時期
気温や湿度がクマゼミに与える影響を考えるために、まずは、その一生を確認しておこう。

① 卵の段階 クマゼミは、夏に枯れ枝に産卵する。卵はやがて休眠に入り、そのまま地上で冬を越す。
② 孵化して土に潜る段階 休眠を終えた卵は、春、気温が上がると体を作り始め、梅雨から夏にかけて孵化する。雨の日に孵化し、幼虫はすぐ土に潜る。

③ 幼虫として地中で過ごす段階 植物の根から栄養を取り、七年ほどかけて成長する。

④ 地上に出て成虫になる段階 幼虫は夏に地上に出て羽化し、産卵して一生を終える。

この中で、気温や湿度の影響を受けやすいのは、地上で外気にさらされる①②④の段階であると推定できる。特に、小さく未熟な状態である①と②は危険だ。①の卵は野外で冬を越すため、厳しい寒さに耐える必要がある。また、②の孵化したばかりの幼虫は弱く、一時間以内に地中に潜らないと、アリに襲われたり乾燥したりして死んでしまう。そのときの環境に、生存が左右されるおそれがあるのだ。

(中略)

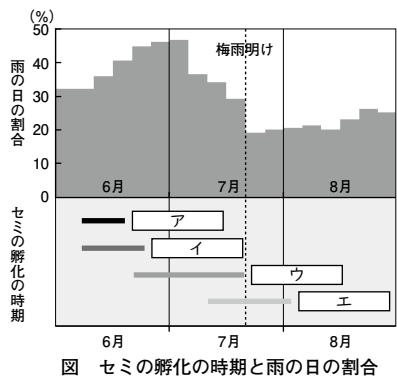
② 私たちは、気温上昇が及ぼす他の影響を検討するために「②孵化して土に潜る段階」に着目した。クマゼミに限らず卵で越冬するセミは、春、気温が上がると体を作り始め、一、二か月で孵化できる状態になる。つまり、気温の上がった近年のほうが早く孵化できる状態になる。

③ 重要なのは、セミの卵がこの状態で雨を待つことだ。生まれただばかりの幼虫は、小さくて体が軟らかく、前述のとおり一時間以内に地中に潜らないと、アリに襲われたり乾燥したりして死んでしまう。そのため、土がぬかるんで軟らかくなる雨の日を狙って孵化するのだ。

確実に雨を捉えるために、セミの卵は高い湿度を感知して孵化する。孵化には雨がヒツスであり、そもそも雨が降らないと、孵化できない仕組みになっているのだ。これは、④孵化の時期が雨の多い梅雨に当たれば、無事に孵化できる確率が高まることを意味する。気温上昇によりセミの孵化は早まっている。A 気象庁の記録によると、過去五十年間、梅雨明けの時期は、ほとんど変わっていない。以上のことから、私たちは、次のような仮説を立てた。

「仮説」気温上昇で孵化が早まり、梅雨に重なったことで、孵化できる卵が増えた。

私たちは、クマゼミを含む四種のセミに産卵させ、卵を野外に置いて観察した。⑤図を見てほしい。他のセミは、孵化がほぼ梅雨の期間に収まっているのに対し、孵化が遅いクマゼミだけは、途中で梅雨が明けてしまった。この観察をしたのは二〇〇七年のこ



とだが、より気温が低かった一九六〇年代には、梅雨明け後に孵化の準備が整い、雨に恵まれずに死んでいく卵がさらに多かったことになる。

B、⑥気温上昇で孵化が早まり、梅雨に重なったことは、クマゼミ増加の⑦原因の一つと考えられる。ただ、梅雨の間に孵化が完了する点では、他のセミのほうが⑧イゼンとして有利だ。クマゼミが増えた一因ではあっても、それだけが原因で、クマゼミの占める割合がこれほど高くなったとは考えにくい。

〈沼田英治「クマゼミ増加の原因を探る」より〉

1 線⑦の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 線「越冬」と同じ構成になっている熟語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 深山 イ 希望 ウ 遷都 エ 長短

3 A、B にあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア ところで イ いっぱう ウ あるいは エ つまり

4 線①「クマゼミの一生」について、次の問いに答えなさい。
(1) 特に危険な段階はいつか。文章中からそれぞれ四字と十字で二つ抜き出して書きなさい。

(2) なぜ(1)の段階が危険なのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 動きが鈍いため、人間に捕獲されやすいから。

イ 卵が産み付けられた木の栄養状態で生死が決まるから。

ウ 地上で外気にさらされるうえ、小さく未熟な状態だから。

エ 小さく軽いため、風や雨で流されやすい状態だから。

5 線②「気温上昇が及ぼす他の影響」とはどのような影響か。「〜という影響。」につながるように、文章中から十二字で抜き出して書きなさい。

6 線③「重要なのは〜待つことだ」とあるが、なぜ孵化できる状態で雨を待つことが重要なのか。「幼虫」「地中」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

7 線④「孵化の時期が〜確率が高まる」のは、セミの卵がどのような仕組みになっているからか。文章中から十七字で抜き出し、始めの五字を書きなさい。

8 線⑤「図」について、この中で、クマゼミの孵化の時期を表したものはどれか。記号で答えなさい。

9 線⑥「気温上昇で孵化が早まり、梅雨に重なったこと」だけが原因でクマゼミが増えたと考えにくいのはなぜか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア クマゼミも他のセミも孵化の時期がばらばらで、孵化と気温上昇との関連性を確認できないから。

イ 気温上昇で孵化が早まった割合はクマゼミより他のセミの方が高く、クマゼミだけが増えた結果と合わないから。

ウ 孵化の時期が遅いクマゼミよりも、孵化がほぼ梅雨の期間に収まる他のセミの方が増加するには有利だから。

エ 観察した四種のセミ以外のセミについても調べないと意味がなく、確実な結果とはいえないから。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

「僕」は職場での会議中、中学時代の同級生であるタクジに言われた「六月十日に会おう。じゃあ、三十歳になったときに。」という言葉进行い出し、今日がその日であることに気づく。

会議室のモニターにはグラフが映し出されていた。ただ、僕の視線の先には、タクジが美術の時間に転倒した場面が浮かび上がっている。

「うわっ。」と、タクジの上げた声^①が美術室に響いた。いったい何事が起きたのか、と顔を上げると、^②その^③ときはタクジが腰を床に打ちつけている。誰かの^④絵の具を踏み^⑤ツブし、チューブから色とりどりの中身が飛び出した。

突然の出来事に、すぐには誰も動けない。

タクジは慌てて立ち上がったものの、絵の具に^⑥滑ったのか、再びひっくり返った。近くにいた同級生にカラフルな滴が飛び散る。少し離れた場所にいた僕のジャージにも、黄色の斑点が幾つかできたほどだ。

タクジは立ち尽くし、少ししてから謝った。耳まで赤くなっていた。

美術の授業は急きよ、雑巾とバケツを使った大掃除の時間となる。誰かが舌打ちをし、別の誰かがタクジを責める言葉をつぶやいた。僕はといえば、謝り続けるタクジの顔を見ることができず、ひたすら床を拭いた。

その日の放課後だ。

教室を出た僕を、タクジが呼び止めてきた。何の用かと思えば、「明日、六月十日はロボットの日らしいんだ。語呂で、ロボットと読めるから。」と言う。^⑦「駅前の広場で、ロボットに関するイベントをやるから、いっしょに行こうよ。」

怒りにも似た、いら立ちが湧いた。

さっき絵の具をひっくり返し、クラス中に迷惑をかけたというのに、どうしてそんなにのんきなことが言えるのか。何がロボットのイベントだ。

「行かないよ。」^⑧自分でも意外なほど、冷たい声が出ていた。「それどころじゃないから。」

タクジは笑顔^⑨のできそこないを浮かべた後で、視線をそらした。

「そうか。そうだよね。」彼は寂しげな表情になったが、^⑩雰囲気^⑪を少しでも和らげるためなのか、「じゃあ、二十歳^⑫になったときに。」と言った。^⑬軽口のつもりだったのだろう。「ロボット

の日、六月十日に、駅前広場で会おう。」

意味のわからないことを言わないでよ。」

タクジは「A」を落としたが、最後の力を振り絞るかのよう^⑭に、「僕がロボットを作るとしたら、転ばないようにするね。」と口にした。

僕は無言で回れ右をして、廊下を先に進んだ。その背中に、「二十歳がだめなら、じゃあ、三十歳になったときにしようか。」と彼の声が聞こえてきたけれど、立ち止まらなかった。

週明け、タクジが引越したことが判明した。タクジ側の希望で、みんなには知らせることができなかった、と先生が申し訳なさそうに説明するのを、僕は窓の外を眺めながら聞いていた。

会議はいつのまにか終わっている。資料の整理を終えると、窓の外が^⑮既に暗い。アイサツをし、職場を後にした。

エレベーターの中で携帯端末を触り、再び日付を確認める。六月十日はロボットの日、と心の中でつぶやく。

タクジが引越した後、僕は連絡を取ろうと思ったものの、行動には移さなかった。最後のやり取りに後ろめたさがあり、その後ろめたさと向き合うことを避けていたのだろう。部活動の大会や高校受験のあれやこれやで忙しいのいいことに、結局、それきりになった。ただ、時おり、タクジとの最後のやり取りのときの自分の態度を思い出すと、^⑯胸の奥に重苦しいものを感じた。

〈伊坂幸太郎「ヒューマノイド」より〉

1 線①②の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 「A」にあてはまる体の一部を漢字一字で書きなさい。

3 線a「とき」、b「その」、c「既に」の品詞名をそれぞれ漢字で書きなさい。

4 線①「絵の具」を別の言葉で言い換えた部分を二つ、文章中からそれぞれ八字と六字で抜き出して書きなさい。

5 線②「再びひっくり返った」とあるが、転倒したタクジの心情が外見に表れている部分を文章中から一文で抜き出し、始めの五字を書きなさい。

6 線③「駅前の広場で、ロボットに関するイベントをやるから、いっしょに行こうよ」とあるが、タクジが「僕」を誘った理由として考えられるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 美術の授業で自分が起こした失敗を「僕」に忘れてほしいと思ひ、ごまかそうとしたから。
イ 自分が引越してしまう前に、「僕」と共有できる思い出を残したかったから。

ウ どうしても一人でイベントに行く勇気が出ず、「僕」について来てほしいと思ったから。
エ ロボットに関する自分の豊富な知識量を、「僕」に自慢できるよい機会だと思ったから。

7 線④「自分でも意外なほど、冷たい声が出ていた」とあるが、それはなぜか。「迷惑」「のんき」の二語を使って、四十五字以上五十五字以内で書きなさい。

8 線⑤「軽口のつもりだったのだろう」とは対照的な、タクジの必死さが表れている部分を文章中から十四字で抜き出して書きなさい。

9 線⑥「胸の奥に重苦しいものを感じた」とあるが、このときの「僕」はどのような気持ちなのか。「態度」「連絡」の二語を使って、「く」気持ち。」につながらるように、三十五字以上四十五字以内で書きなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

妹の出発が決まると、暗幕を垂らした暗い電灯の下で、母は当時貴重品になっていたキラコで肌着を縫って名札を付け、父は^⑦おびた^⑦だしい葉書にきちようめんな筆で自分宛ての宛名を書いた。

「元気な日はマルを書いて、毎日一枚ずつポストに入れなさい。」

と言ってきた。妹は、まだ字が書けなかった。

宛名だけ書かれたかさ高な葉書の束をリュックサックに入れ、雑炊用のどんぶりを抱えて、妹は遠足にでも行くようにはしゃいで出かけていった。

一週間ほどで、初めての葉書が着いた。紙いっぱいはいみ出すほどの、^①威勢のいい赤鉛筆の大マルである。付き添っていた人の話では、地元婦人会が赤飯やぼた餅を振る舞って^①カンゲイしてくださったとかで、かぼちゃの茎まで食べていた^②東京に比べれば大マルにちがなかった。

ところが、次の日からマルは急激に小さくなっていった。情けない黒鉛筆の小マルは、ついにバツに変わった。その頃、少し離れた所に疎開していた上の妹が、下の妹に会いに行った。下の妹は、校舎の壁に寄り掛かって梅干しの種をしゃぶっていたが、姉の姿を見ると、種をぺっと吐き出して泣いたそう。なまもなくバツの葉書も来なくなった。三月目に母が迎えに行ったとき、百日ぜきをわずらっていた妹は、しらみだらけの頭で三畳の布団部屋に寝かされていたという。

^③妹が帰ってくる日、私と弟は家庭菜園のかぼちゃを全部収穫した。小さいのに手をつけると^④シカル父も、^④この日は何も言わなかった。私と弟は、ひと^⑤抱えもある大物からてのひらに載るうらなりまで、二十数個のかぼちゃを一列に客間に並べた。これぐらいしか妹を喜ばせる方法がなかったのだ。

夜遅く、出窓で見張っていた弟が、
「帰ってきたよ!」

と^⑦叫んだ。茶の間に座っていた父は、はだして表へ飛び出した。防火用水桶の前で、痩せた妹の肩を抱き、声を上げて泣いた。^⑤私は父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た。

〈向田邦子「眠る盆」より〉

1 ― 線⑦「おびた^⑦だしい」の意味として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 高価な イ たくさんの ウ 数枚の エ 小さな

2 ― 線①④の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

3 ― 線「はしゃいで出かけていった」を、文節と単語にそれぞれ分けて、その数を漢数字で書きなさい。

4 ― 線①「威勢のいい赤鉛筆の大マル」について、次の問いに答えなさい。

(1) 妹の様子として、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 戦争を恐れ、おびえている様子
イ 疎開先での生活に満足している様子
ウ 葉書を書くことを楽しんでいる様子
エ 空襲のない生活に安心している様子

(2) 対照的な表現を文章中から十一字で抜き出して書きなさい。

5 ― 線②「東京に比べれば大マル」と言えるのはなぜか。「東京では…疎開先では…」という形で、東京と疎開先との違いを明らかにして、四十文字以上五十文字以内で書きなさい。

6 ― 線③「妹が帰ってくる日」に、弟と父が妹の帰りを待ちわびていたことがわかる行動は何か。弟は九字で、父は十一字でそれぞれ文章中から抜き出して書きなさい。

7 ― 線④「この日は何も言わなかった」とあるが、それはなぜか。「父」「妹」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

8 ― 線⑤「私は父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た」とあるが、このときの筆者の心情として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 父が普段泣く姿を見たことがなかったので、喜んでいる。
イ 初めて見る父の泣く姿に大きなショックを受けている。
ウ 父の姿に驚くと同時に、娘を思う父の愛情に感動している。
エ 父の泣く姿を目に焼き付け、忘れまいとしている。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

では、モアイを作った文明は、いったいどうなったのだろうか。

かつて島が豊かなヤシの森に覆われていた時代には、土地も肥え、バナナやタロイモなどの食料も豊富だった。しかし、森が消滅するとともに、豊かな表層^⑦ドジョウが雨によって侵食され、流失してしまった。火山島はたださえ岩だらけだ。その島において、表層ドジョウが流失してしまうと、もう主食のバナナやタロイモを栽培することは困難となる。おまけに木がなくなったため船を造ることもままならなくなり、たんぱく源の魚を捕ることもできなくなった。

こうして、イースター島はしだいに食料危機に直面していくことになった。その過程で、イースター島の部族間の抗争も頻発した。そのときに倒され破壊されたモアイ像も多くあったと考えられている。そのような経過をたどり、イースター島の文明は崩壊してしまった。モアイも作られることはなくなった。文明を崩壊させた根本的原因是、森の消滅にあったのだ。千体以上のモアイの巨像を作り続けた文明は、十七世紀後半から十八世紀前半に崩壊したと推定されている。

② イースター島のこのような運命は、私たちにも無縁なことではない。

日本列島において文明が長く^①繁栄してきた背景にも、国土の七十パーセント近くが森で覆われているということが深く関わっている。日本列島だけではない。地球そのものが、森によって支えられているという面もある。^③森林は、文明を守る生命線なのである。

現代の私たちは、地球始まって以来の異常な人口爆発の中で生きている。一九五〇年代に二十五億足らずだった地球の人口は、半世紀もたたないうちに、その二倍の五十億を突破し、今や八十億を超えてしまった。イースター島の急激な人口の増加は、百年に二倍の割合であったから、^④いかに現代という時代が異常な時代であるかが理解できよう。

このまま人口の増加が続いていけば、二〇五〇年には九十七億に達するだろうと予測される。必要な食料はますます増えていくだろう。実際、二十一世紀に入ってから二十年間で、世界の農耕地の面積は急速に拡大している。しかも、新たな農耕地の約半分は、森林を切り開いて生み出されたものだ。今のところ、全人口を支えるだけの食料生産は維持されているが、分配の不均衡により、飢餓に悩まされる国や地域は増えている。目の前の危機を乗り越えるために、これ以上、森林を切り開けば、表層ドジョウの流出によって、結果的に食料不足が^⑤コウジョウ化するおそれもある。

絶海の孤島のイースター島では、森林資源が枯渇し、島の住民が^⑥飢餓に直面したとき、どこからも食料を運んでくることができなかった。地球も同じである。広大な宇宙という漆黒の海にぼっかりと浮かぶ青い生命の島、地球。その森を破壊し尽くしたとき、その先に待っているのはイースター島と同じ飢餓地獄である。とするならば、私たちは、今あるこの有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならぬ。それが、^⑦人類の生き延びる道なのである。

〈安田喜憲「モアイは語る―地球の未来」より〉

1 ――線⑦の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 ――線a「かつて」c「その」の品詞名を漢字で書きなさい。

3 ――線b「困難」d「有限」の対義語を漢字で書きなさい。

4 ――線①「イースター島の文明は崩壊してしまった」とあるが、イースター島の文明が崩壊した根本的原因を文章中から抜き出して書きなさい。

5 ――線②「イースター島のこのような運命は、私たちにも無縁なことではない」とあるが、この一文の文章中における役割を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 話題をイースター島から地球に切り替えている。
イ 話題をイースター島からモアイに切り替えている。
ウ 話題に人類の軌跡を付け足している。
エ 話題に地球の存在意義を付け足している。

6 ――線③「森林は、文明を守る生命線なのである」とはどういう意味か。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 文明が発展することで森林も大切にされるようになった。
イ 森林の面積の広さにより文明の発展具合を判断できた。
ウ 文明は森林のさまざまな恩恵により支えられてきた。
エ 森林があったことで人口を急激に増やすことができた。

7 ――線④「いかに現代という時代が異常な時代であるか」について、次の問いに答えなさい。

(1) どのような現象を指して異常と述べているのか。文章から四字で抜き出して書きなさい。

(2) この現象が、なぜ異常といえるのか。「イースター島」「地球」「半世紀」の三語を使って、五十字以上六十字以内で書きなさい。

8 ――線⑤「人類の生き延びる道なのである」とあるが、どうすることが必要と述べられているか。「資源」「効率」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

〔原文〕

与一、かぶらを取つてつがひ、よつぴいて^① ひやうど放つ。小兵と^⑦ いふぢやう、十二束三伏、弓は強し、浦響くほど長鳴りして、あやまたず扇の要ぎは一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたる。かぶらは海へ入りければ、扇は空へぞ上がりける。しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。夕日^⑧のかかやいたるに、みな紅の扇の日出だしたるが、白波の上に^⑨漂ひ、浮きぬしづみぬ揺られければ、沖には平家、ふなばたをたたいて感じた^⑩り、陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。

あまりのおもしろさに、感に堪へざるにやとおぼしくて、舟のうちより、年五十ばかりなる男の、黒革をどしの鎧着て、白柄の長刀持つたるが、扇立てたりける所に立つて舞ひしめたり。伊勢三郎義盛、与一が後ろへ歩ませ寄つて、
「^④御定ぞ、つかまつれ。」
と^⑤言ひければ、今度は中差取つてうちくはせ、よつぴいて、しや頸の骨をひやうふつと射て、舟底へ逆さまに射倒す。平家の方には音もせず、
「^⑥源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり。」

「あ、射たり。」
と言ふ人もあり、また、
「^⑦情けなし。」
と言ふ者もあり。

〔現代語訳〕

与一は、かぶら矢を取つてつがえ、十分に引き絞つてひょうと放つた。小柄なので、矢は十二束三伏だが、弓は強い、かぶら矢は、浦一帯に鳴り響くほど長いうなりを立てて、誤ることなく扇の要から一寸ほど離れた所をひいふつと射切った。かぶら矢は海へ落ち、扇は空へと舞い上がった。しばしの間空に舞っていたが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつと散り落ちた。夕日が輝く中に、金の日輪を描いた真つ赤な扇が白い波の上に漂つて、浮きつしずみつ揺れているのを、沖では平家が、舟端をたたいて感嘆し、陸では源氏が、えびらをたたいてはやし立てた。

あまりのおもしろさに、感動したのであろう、舟の中から、年の頃が五十歳ぐらいで、黒革おどしの鎧を着て、白柄の長刀を持った男が、扇の立ててあつた所に立つて舞を舞った。そのとき、伊勢三郎義盛が、那須与一の後ろへ馬を歩ませてきて、
「御命令であるぞ、射よ。」

と言つたので、今度は中差を取つてしっかりと弓につがえ、十分に引き絞つて、男の頸の骨をひやうふつと射て、舟底へ真つ逆さまに射倒した。平家は静まりかえつて音もしない、源氏は今度もえびらをたたいてどつと歓声を上げた。

「ああ、よく射た。」
と言う人もあり、また、
「心ないことを。」
と言う者もあった。

〈「平家物語」より〉

1 「平家物語」が成立した時代とそのジャンルをそれぞれ漢字で書きなさい。

2 線⑦⑨を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

3 線a・dの「の」の中から、意味・用法の異なるものを選び、記号で答えなさい。

4 線①「ひやうど」は擬音語であるが、これ以外の擬音語を〔現代語訳〕から二つ抜き出して書きなさい。

5 線②「陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり」とあるが、源氏の武士たちはどのような気持ちだったのか。「与一」「腕前」の二語を使って、二十字以上三十字以内で書きなさい。

6 線③「おもしろさ」とあるが、何がおもしろかったのか。「(誰)が」こと。という形で書きなさい。

7 線④「御定」とは、何をどうしろという命令か。「」という命令。」につながるように、十字程度で書きなさい。

8 線⑤「言ひければ」の動作主を〔原文〕から抜き出して書きなさい。

9 線⑥「源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり」とあるが、源氏の武士たちがどよめいたのはなぜか。「扇」「舞」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

10 線⑦「情けなし」と言った者は、どのような行動に対して「心ない」と言っているのか。「感動」「非情」の二語を使って、二十字以上三十字以内で書きなさい。

一、次の漢詩を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

絶句

杜甫

〔書き下し文〕

江は碧にして鳥は逾よ白く

山は青くして花は然えんと欲す

今春看す又過ぐ

何れの日か是れ帰年ならん

〔訓読文〕

江 碧 鳥

山 青 花

今 春 看

何 日 是 帰 年

逾 白

欲 然

又 過

何 日 是 帰 年

1 この漢詩の形式を漢字四字で書きなさい。

2 この漢詩の押韻に該当する二つの文字を「訓読文」の中からそれぞれ一字で抜き出して書きなさい。

3 この漢詩の前半で色を表す言葉はどれか。「訓読文」の中から四つ、一字で抜き出して書きなさい。

4 線①「花は然えんと欲す」の意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 花がたくさん咲いていて燃えるように真っ赤である。
イ 花がたくさん咲いていたのに、燃えてなくなった。
ウ 花は自然の中で咲き続けたいと思っているはずだ。
エ 世の中の人々、自然の花が咲いていて欲しいと願っている。

5 線②「江」、線③「鳥」と対になる言葉を、「訓読文」の中からそれぞれ一字で抜き出して書きなさい。

6 線④「何日は帰年」を現代語訳して書きなさい。

7 前半に美しい風景を描くことで、どのような効果が生まれているか。「景色」「悲しみ」「作者」の三語を使って、「効果」につながるように、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

二、次の漢詩を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

黄鶴楼

にて孟浩然の広陵に之くを送る

李白

〔書き下し文〕

故人西のかた黄鶴楼を辞し

孤帆の遠影碧空に尽き

唯だ見る長江の天際に流るるを

〔訓読文〕

故 人 西 辞 黄 鶴 楼

煙 花 三 月 下 揚 州

孤 帆 遠 影 碧 空 尽

唯 見 長 江 天 際 流

1 この漢詩の形式を漢字四字で書きなさい。

2 承句を書き下し文に直しなさい。

3 この漢詩の押韻に該当する三つの文字を「訓読文」の中からそれぞれ一字で抜き出して書きなさい。

4 線①「送る」とあるが、作者はどこから故人を見送っているか。「書き下し文」から抜き出して書きなさい。

5 線②「辞し」の意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友を避けて
イ 合格を辞退して
ウ 別れを告げて
エ 仕事を辞めて

6 線③「故人」について、次の問いに答えなさい。

(1) この言葉の意味を書きなさい。
(2) ここでは誰のことを指すか、名前を漢字で書きなさい。

7 転句で対照的に描かれている二つのものを「書き下し文」の中からそれぞれ二字で抜き出して書きなさい。

8 この詩には作者のどのような気持ちが表されているか。「孟浩然」「別れ」の二語を使って、二十字以上三十字以内で書きなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

レオナルドは、どうしてこんなにうまく、いろいろな手を描くことができたのだろうか。実は、彼は人体の⑦解剖を通して骨格や筋肉の研究をし、人の体がどのような仕組みでできているかを知り尽くしていた。だから、手だけでなく顔の表情や容貌も、一人一人の心の内面までもえぐるように描くことができた。

さらに注目してほしいのは、ここに描かれている室内の壁や天井だ。壁のタピスリーや天井の格子模様を見てみよう。壁がだんだん狭くなって、タピスリーも奥にいくほど小さくなる。これが遠近法だ。レオナルドは、絵画の遠近法を探究し、それを①この絵で完成させた。この絵には、遠くのは小さく見えるという、遠近法の原理が使われている。室内の空間を、遠くにいくにつれて小さく描くことで、部屋に奥行きが感じられるようになる。

遠近法には、さらに②別の効果もある。壁のタピスリーや天井の格子など、奥に向かって狭まっていく線を延ばしていくと、その線は一つの点に集まる。これを遠近法の消失点というが、なんと、その点の位置が、キリストの額なのだ。これにより、絵を見る人の視線は自然とキリストに集まっていく。この絵の主人公は、キリスト。誰が見ても、そう思わせる効果がある。遠近法という絵画の技法が、そこに描かれた人物たちの物語をドラマチックに演出している。これは、描かれた絵が偶然そうなったということではない。レオナルドは、明らかに計算をしてこの絵を描いたのだ。その証拠に、キリストの右のこめかみには、くぎの穴の跡がある。このくぎから糸を張って、あちこちに延ばし、画面の構図を決めていったのだ。まるで設計図のような絵ともいえる。

A、レオナルドは、光の効果も緻密に計算していた。描かれた部屋の白い壁を見ると、右側には光が当たり、左側は影になっている。この壁画は食堂の壁に描かれているが、描かれた部屋の明暗は、食堂の窓から差し込む現実の光の方向とが④合っている。そのため、壁に描かれた部屋は、あたかも本物の食堂の延長にあるようにすら見える。

このように、遠近法や光の明暗の効果を合わせて用いることで、絵に描かれているのが本物の部屋であるように見えてくる。だから、かつての修道士たちのように、こんな部屋で食事をしたら、まるでキリストたちといっしょに晩餐をしているような気持ちになるにちがいない。

解剖学、遠近法、明暗法。そのような絵画の科学が、それまで誰も描かなかった新しい絵を生み出した。レオナルドが究めた絵画の科学と、そのあらゆる可能性を目のあたりにできること。これが、「最後の晩餐」を「かっこいい。」と思わせる一つの要因だろう。

ただ、残念なことに、この絵は描かれてから五百年もたって、今では絵の具が剥げ落ち、ぼろぼろになってしまった。そこで、絵の修復が行われた。

「最後の晩餐」の修復が終了したのは、一九九九年五月のことだ。それまでかびやほこりで薄汚れて、暗い印象のあった絵から、鮮やかな色彩がよみがえった。しかし、絵の細かいところはわからない。レオナルドが描いた細部は、既に剥がれ落ち

て、消えてなくなっていた。修復の作業は、あくまで汚れを落とすことと、現状の絵をそのままに保護することだけだ。だから修復された絵には、もう細かい描写はない。今、私たちが見ることができるのは、そんな「最後の晩餐」である。

B、実際に修復を終えた「最後の晩餐」の前に立って、その絵を眺めると、文句がないほどに魅力的なのだ。確かに細部は落ちて、消えてなくなっている。しかし、そのためにかえって、絵の「全体」がよく見えるようになった。人物の④リンクが作る形。その連なり。絵の構図がもっている画家の意図。つまり、レオナルドが、絵画の科学を駆使して表現しようとしたものが、とてもよく見えてくる。だから、いきなり「かっこいい。」と思えるのだ。

〈布施英利「君は『最後の晩餐』を知っているか」より〉

1 線㊦㊧の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直さない。

2 線a、cの用言の品詞名と活用形をそれぞれ漢字で書きなさい。

3 線d、eの語句の品詞名を漢字で書きなさい。

4 A、Bにあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

Aとところがイだから ウ さて エ また

5 線①「この絵」を筆者はどのような絵だと述べているか。文章中から十一字で抜き出して書きなさい。

6 線②「別の効果」について、その効果にあてはまらないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

A 見る人たちの視線をキリストに集める効果

イ キリストに死が迫っていると暗示する効果

ウ 絵の人々の物語をドラマチックにする効果

エ 絵の主人公がキリストだと思わせる効果

7 線③「いきなり『かっこいい。』と思えるのだ」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「かっこいい」という表現は、読者にどのような効果を与えるか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

A 長文の間に短文を差し込むことで、リズムを整えている。

イ 読者に問いかけることで、筆者の意見を主張している。

ウ たとえを使うことで、読者の理解を助けている。

エ 読者に身近な言葉を使うことで、強く印象付けている。

(2) 「かっこいい」と思えるのはなぜか。「科学」の一語を使って、三十五字以上四十五字以内で書きなさい。

8 この文章について述べた文として適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

A レオナルドは絵画の中に遠近法を取り入れ、「最後の晩餐」でその技法を完成させた。

イ レオナルドは医師であり、解剖学の知識を趣味の一つであった絵画に生かしていた。

ウ 遠近法には絵を見る人の意識を、描かれている人物一人一人に分散させる効果がある。

エ 絵画の科学を用いることで、レオナルドは誰も描かなかった新しい絵を生み出した。

オ 「最後の晩餐」は食堂に描かれているが、食事のマナーを示すために作られた。

②×3	⑥ × 1	③×1	⑥ × 1	② × 4	②×3	③ × 5			
10 思	9 思	8 思	7 思	6 思	5 思	4 知	3 知	2 知	1 知
ア				A	②	ア	③	あ	
段落									
	15		30						
イ				B		①			
段落									
					③		④		
ウ						⑤			
段落									
	25		40						

2

令7

枕 まくら

草 そう

子 し

2 年

組

番

氏 名

観
点
別

知・技

21

思・判・表

29

得 点

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

⑤

×

2

④

×

4

③

×

8

8

⑧

7

6

⑥

5

⑤

4

④

3

③

2

②

1

①

(2)

(1)

b

a

ウ

ア

d

c

エ

イ

25

50

35

60

モアイは語るー地球の未来

2年組番氏名

観点別

知・技

24

思・判・表

26

6

令7

モアイは語るー地球の未来

2年組番氏名

得点

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

観点別
知・技
18
思・判・表
32

得点

④ × 1

③ × 2

③ × 1

③ × 2

③ × 3

8

7

6

5

4

3

2

1

8

7

6

5

4

3

2

1

④ × 1

③ × 4

③ × 2

7

6

5

4

3

2

1

7

6

5

4

3

2

1

20

30

35

25

効果。

「〜

||
||
||

||
||
||

(採点基準)

令7
枕 まくら
草 そう
子 し
2 年 組
番 名
氏 名
得 点

ひらがなでなければ不可。
歴史的仮名遣いでなければ不可。
文末が「〜様子。」でなければ二点減点。
何がどのように変化することが好ましくないかが述べられていなければ不可。文末が「〜こと。」でなければ二点減点。

観点別
知・技
21
思・判・表
29

②×3		⑥×1		③×1		⑥×1			②×4		②×3		③×5											
10 思		9 思		8 思		7 思			6 思		5 思		4 知		3 知			2 知		1 知				
ア		ば		(例) 昼		(例) 気		通			て		(例) と		A		②		ア		う		あ	
4	15	か		に		温		30			っ		、		て		を				(例)		(例)	
		り		な							て		炭		も		か				よう		明け方	
		に		り							い		を		寒		し				よう		そうでなくても	
		な		、							く		持		い		B		①				b	
イ		る		火				様			ち		と		あ									
3	段落	こ		桶				子			な		き		は		③		ち					
		と		の				。			が		に		れ				こ		い			
		。		火							ら		、						う					
ウ				が							廊		火						ウ					
2	段落			白							下		を											
				い				40			な		お						ひ					
		25		灰							ど		こ		し				お					
											を		し											

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

クマゼミ増加の原因を探る
2 年 組 番
氏 名
得 点

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

(採点基準)

6 「幼虫」「地中」の二語がなければ不可。
理由を述べる文末表現でなければ二点減点。

観点別
知・技
12
思・判・表
38

④ × 3			⑤ × 1			④ × 1	③ × 3			④ × 2	④ × 1	② × 4					
9 思	8 思	7 思	6 思			5 思	4 思			3 思	2 知	1 知					
ウ	エ	雨	要	一	(例)生	早	(2)	(1)		A	ウ	㊦	㊦				
		が	が	時	ま	く	ウ	孵	卵	の		げんいん	必須				
		降	あ	間	れ	孵		化									
		ら	る	以	た	化		し									
		な	た	内	ば	で		て									
			め	に	か	き		土									
			。	地	り	状			に	B	㊥		㊥				
				中	の	態				エ			㊦				
				に	幼	に							依 然				
				潜	虫	な											
				る	は	る											
			35	必	、	という影響。							ととのい				
									段								
									階								
									階								

(採点基準)

令7
字のない葉書
2年組番
氏名
得点

7 5 3
「文節」はしやい／で／出かけて／いった
「単語」はしやい／で／出かけて／いった
「東京では、疎開先では」という形でなければ不可。
理由を述べる文表現でなければ不可。二点減点。
理由を述べる文表現でなければ不可。二点減点。

観点別
知・技
20
思・判・表
30

④×1	⑤	×	1	④	×	2	⑤	×	1	④	×	2	④×2	②	×	4	④×1
8				6			5			4			3				1
25	い	持	(例)妹	父	弟	た	や	ベ	(例)東	(2)	(1)	文節	エ	イ			
	た	ち	を	は	出	か	ぼ	て	京	情							
	か	を	喜	だ	窓	ら	た	い	で	け					か	歓	
	ら	父	ば	し	で	。	餅	た	は	な	イ	三					イ
	。	も	せ	で	見		を	が	か	い				か	迎		
		理	た	表	張		振	、	ぼ	黒				え			
		解	い	へ	っ		る	疎	ち	鉛			単語	オ	ウ		
		し	私	飛	て		舞	開	や	筆							
		て	と	び	い		っ	先	の	の							
		く	弟	出	た		て	で	茎	小							
35	れ	の	弟	し		50	も	は	ま	マ					さ	叱	
	て	気	の	た			ら	赤	で	ル					け		
							え	飯	食						んだ	る	

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

(採点基準)

7 (2) 「イースター島」「地球」「半世紀」の三語がなければ不可。
理由を述べる文末表現でなければ二点減点。
8 「資源」「効率」の二語がなければ不可。
文末が「〜こと。」でなければ二点減点。

観点別
知・技
24
思・判・表
26

⑤ × 2			④ × 4			③ × 8						
8 ⑤ 思			7			6 ④ 思	5 ④ 思	4 ④ 思	3 ③ 知	2 ③ 知	1 ③ 知	
(例)有			(2)			(1)			b	a	ウ	ア
え	に	限	っ	う	、	倍	(例)イ	人				
る	わ	の	た	ち	地	の	ー	口				
こ	た	資	か	に	球	割	ス	爆	ウ	ア	森の消滅	容易(平易)
と	り	源	ら	二	は	合	タ	発			副	恒
。	利		。	倍	半	で	ー				詞	常
	用	を		を	世	人	島				(漢字指定)	(漢字指定)
	す	効		突	紀	口	で				d	c
	る	率		破	も	が	は					
	方	よ		し	た	増	百				無	連
	策	く		て	た	え	年				限	体
	を	長		し	な	た	に					詞
	考	期		ま	い	が	二				(漢字指定)	(漢字指定)

令7

扇

の

的

2年組番氏名

得点

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

(採点基準)

ひらがなでなければ不可。文末が「〜気持ち。」でなければ二点減点。
「与」「腕前」の二語がなければ不可。理由を述べる文末表現でなければ二点減点。
「扇」「舞」の二語がなければ不可。理由を述べる文末表現でなければ二点減点。
「感動」「非情」の二語がなければ不可。文末が「〜行動。」でなければ二点減点。

観点別
知・技
18
思・判・表
32

⑤ × 2					③ × 1	④ × 2	⑤ × 1	③ × 2	③ × 6	①				
10		9			8	7	6	5	4	3	2	1		
を	(例)与	と	あ	(例)扇	伊勢三郎義盛	(例)舞	(例)	た	(例)与	ひいふつ(と)	ウ	ア	時代	
射	一	が	る	を		を	与一が扇(的)に矢を当てたこと。	た	一		鎌倉			
倒	の	で	舞	射		舞	ひいふつ(と)	え	の			ただよい	いうじょう	
す	弓	き	を	た		う		よ	弓					b
と	の	た	舞	こ		男		う	の					
い	腕	か	つ	と	を	と		腕	20					
う	前	ら	た	に	射	す		前		ひようふつ(と)				
非	に	。	男	続	よ	る	に	30						
情	感	35	を	き	ち	気	感				①			
な	動		射	、	。	持	動					ぐれない		
行	し		る	敵	という命令。	て	し		軍記物語					
動	て		こ	で		ほ	、			(漢字指定)				
。	舞					め								
	う													
	男													

令7
君は「最後の晩餐」を
知っているか
2 年 組 番
氏 名

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

(採点基準)

7 (2) 「科学」の一語がなければ不可。
理由を述べる文末表現でなければ二点減点。

観点別
知・技
18
思・判・表
32

④×1		⑧				×		1		④		×		5		②		×		9	
8		7				6		5		4		3		2		1					
ア	(2)				(1)		エ	イ	A	d	c	b	a	㊦	㊦						
	て	た	を	(例)レ	品詞名	品詞名			品詞名	連 体 詞 (漢字指定)	形容動詞	動詞	形容詞	合致	かいぼう						
	く	も	駆	オ																	
	る	の	使	ナ																	
	か	が	し	ル																	
	ら	、	て	ド																	
	。	と	表	が																	
エ	45				35	図	B	e	活用形	活用形	活用形	㊦	㊦								
		て	現	、			の	副 詞 (漢字指定)	連用形	終止形	連用形	輪郭	ようぼう								
		も	し	絵			よ														
		よ	よ	画			う														
		く	う	の			な														
		見	と	科			絵														
		え	し	学																	

